

令和 8 年度 第 1 回 釧路市基本構想会議 議事要旨

1 日 時 令和 8 年 8 月 18 日（火）午前 9 時 30 分～午前 11 時 10 分

2 場 所 釧路市役所 防災庁舎 5 階本部会議室

3 出席者

- （１）委 員 大関委員、清水委員、土屋委員、中村委員、長谷川委員、
畑委員、濱口委員、藤川委員、吉田委員（五十音順）
- （２）釧路市 鶴間市長、菅野副市長、藤田総合政策部長、阿部企画課長、
波田地基本構想主幹、田中企画総括係長、大島専門員、
佐々木主査、山平主事、節田会計年度任用職員

4 内 容

- （１）開会
- （２）委嘱状交付
- （３）市長挨拶
- （４）委員紹介
- （５）会議成立確認
 - ・委員の過半数の出席により、釧路市基本構想会議設置要綱第 6 条第 2 項の規定による本会議の成立を確認。
- （６）情報公開について
 - ・本会議は公開のうえ、開催されることを確認。
 - ・会議要旨は、後日、市ホームページに掲載することを確認。
- （７）議長・副議長選任
 - ・全会一致で中村委員が議長に、森崎委員が副議長に選任。
- （８）議長挨拶
- （９）議事
 - ① 釧路市まちづくり基本構想の策定について

- ・資料 1 に基づき、事務局より説明。

意見交換

(○は委員の発言、◎は議長の発言、●は事務局の発言、以下同じ)

◎ 事務局から次期まちづくり基本構想の策定方針が示された。第 1 回会議なので、まずは素朴な疑問や意見により理解を深めていただくことがよろしいかと思う。

○ パブリックコメントやアンケートで広く集めた意見を取りまとめようとする、誰の心にも刺さらない丸い内容やぼやけた構想になってしまいがちである。どこを重点的に進めていくのかという強い思いや軸を持って作成・決定していくことが重要と考えるが、どのようなプロセスで進めるのか。

● 基本構想会議は年 2 回程度の開催を予定しており、次回は 2 月を予定している。集計中のアンケート結果は 12 月頃に郵送する。事務局からたたき台や骨格を示し、委員の意見を聞きながら、基本構想へ反映できるよう進めていきたい。

○ 市政懇談会の開催時間帯が平日の日中中心であり、最も意見を聞きたい 30 代～50 代の世代が参加しづらい印象がある。より多くの若い世代の意見を届けるためにも、開催時間帯に配慮してはどうか。

● 若い世代の意見聴取は重要課題と認識している。夜間開催や場所の工夫を含め、今年度の参加者・未参加者アンケートなどのご意見を踏まえながら、適切な開催方法や時間帯を検討していく。

○ 若者の意見を効果的に集め、職員の負担も考慮するならば、ウェブ（オンライン）を活用した意見収集の手法も有効ではないか。

○ 分野横断的に複数の計画を一体化させる方針とのことだが、これまでの各専門会議での議論や膨大な情報をどのように集約・一体化させるイメージなのか。

● まち・ひと・しごと創生総合戦略や国土強靱化計画など、既存の計画を重点戦略として位置付ける手法を検討している。全体に溶け込ませる形か、別立てで位置付ける形かなど、市民にとって分かりやすい構成・整理の仕方を検討していく。

- テーマや課題が多岐にわたる中、限られた時間で議論を深めるためには、ある程度テーマや重点を絞り込んで議論を進める必要があるのではないか。
- 市政の課題は様々あるが、大きな柱として「人口減少」と「防災・減災」の観点を盛り込んだ施策構成を考えている。
- 全ての施策を網羅することは大切だが、まず最初に「このようなまちをつくりたい」という明確で分かりやすいビジョンや理想像を打ち出すべきである。トップや事務局が目指す方向性を提示した上で議論を進める方が、専門的な知見を持つ委員からも具体的なアイデアが出やすいのではないか。
- 提示された資料では理解しづらい部分がある。釧路市としてどのようなまちを目指すのか、骨子や目指すべき姿を明確にした上で進めるべきだ。その方がアンケート等の意見収集もより有効に機能すると考える。
- 行政主導の計画で終わらせず、市民や企業とイメージを共有することが重要である。現在は「つながる まち・ひと・未来 ひがし北海道の拠点都市 釧路」という目標を踏まえ、まちづくりを進めているが、より市民に分かりやすく、共有しやすい表現を意識して策定を進めていきたい。
- 構想の策定過程において、行政だけでなく民間の視点やノウハウを取り入れることが重要だ。特に歳入増や地域の強みを生かした発信、防災拠点を賑わい施設と兼ねるような事前提案など、民間の発想や専門家を最初から巻き込んでつくり込んでいくべきではないか。
- 行政単独でできることには限りがあり、特に周知やプロモーション等の課題については民間の発想や知見が不可欠である。工夫を重ねながら進めてまいりたい。

(市長退席時の挨拶)

非常に活気あるご意見をいただき感謝する。目指すべき具体的なまちの姿や民間の視点の導入など、事務局とも柔軟に対応しながら一体となって進めていきたい。

② 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進状況等について

- ・ 資料2～4に基づき、事務局より説明。

- 経済指標に関する評価（お天気マーク）があるが、単に相談件数などの実績数値だけでなく、財務省や日銀、民間シンクタンクが出すような実際の景気動向や経営者の実感（景況感）を捉えられるような指標を組み込めないか。
- 定例的に市独自で観測できるデータには限りがあるが、実際の経済動向をどう反映させるか、次期の指標（KPI）設定に向け他自治体の事例も含め研究・検討していきたい。
- KPIの数値を達成していても、実際の現場では人材不足などの深刻な課題が解決していないギャップがある。単なる事業の達成度だけでなく、現場の課題や実態を共有・評価できる仕組みが必要ではないか。
- 事業結果としての数値達成（アウトプット）と、課題解決や波及効果（アウトカム）の面でギャップがあることは認識している。いただいたご意見を踏まえ、KPIの示し方や課題共有の議論の進め方を検討したい。
- ◎ 施策の成果を見る上では、予算や事業を実行した「アウトプット」の達成度だけでなく、それによって地域経済や雇用などにどのような変化をもたらしたかという「アウトカム（果たすべき効果）」の視点が極めて重要である。KPIの再整理や工夫が求められる。
- 成果目標（アウトカム）と各取り組み（アウトプット）の関係性を整理し、分かりやすく提示できるよう工夫していきたい。
- 行政の各種手続きや補助金の交付だけでなく、建築確認の期間短縮や手続の簡素化といった仕組み自体の改善も重要である。また、子育て環境の整備においても単なる数値目標の達成だけでなく、現場の経営維持や真に必要な支援（上乗せ支援等）へ踏み込む姿勢が求められる。
- 手続き等の利便性向上や、保育・子育て環境整備のための改修補助など、実施している支援の周知を徹底するとともに、予算編成の中でより実効性のある施策を検討していく。
- 将来の人口減少に歯止めをかけるには、「親になる世代の定着」が最重要課題である。そのためには現在の義務教育期間中の子どもたちに対し、釧路の自然や歴史、地元の魅力を深く知ってもらう教育施策に投資し、地域への愛着（シビックプライド）を育むことが結果として将来の地元定着（Uターン等）につながるのではないか。

- 若者や女性の視点、地域への誇りや愛着（シビックプライド）の醸成は極めて重要である。釧路に住み続けたいと思えるまちづくりを基本構想の中でもしっかりと位置付けていきたい。

- 企業側としても魅力的な雇用を創出し、若者を惹き付ける努力が必要である。例えば雇用数増加や若手採用に貢献した企業を表彰・見える化するなど、民間が意欲を持てるような指標や見せ方の工夫も一案ではないか。

③ 総合戦略交付金対象事業の進捗状況等について

- ・ 資料５～６に基づき、事務局より説明。

- 国の多様な交付金の中から、本市としてどのように対象事業を選定し活用を決めているのか。

- 国からの各種情報を受け企画課が庁内に照会し、各部署から提案された事業の中から利用条件の適合性や施策の効果を考慮し、予算編成プロセス（部長級・市長等での検討）を経て決定している。

（全体を通した意見交換）

- 北海道総合開発計画との整合性をどう図るか。釧路港の機能強化や広域交通ネットワークの活用、食料安全保障への貢献など、将来的な都市機能の投資・維持に向けたスタンスを明確に示すべきである。

- 産業や港湾、都市計画など各分野の課題を整理しつつ、将来の理想像を描く物語として夢のある構想になるよう各課と調整を図り文章化していきたい。

- ネガティブな課題解決ばかりに注力するのではなく、港湾や特定の強み・産業に対して積極的に投資し、伸ばしていく攻めの姿勢も盛り込むべきだ。

- 釧路市の持つ独自の強みを再確認し、現状と課題を振り返りながら計画へ反映させていきたい。

- 2027 年 4 月からの改正制度（育成就労制度）により、外国人労働者が自治体・企業を選べる時代になる。行政としても選ばれる地域となるための手厚い環境整備や支援策を構想に盛り込む必要があるのではないか。
- 多文化共生や生活環境の整備を含め、誰もが釧路に住みたいと思える環境づくりをしっかりと考えていきたい。
- 地域と学校が連携するコミュニティ・スクールを通じ、防災や地元企業、自然環境といった地域課題をテーマにした探究学習を推進することは、子どもたちの地域愛やシビックプライドを育み、将来的な地元定着の土台となる。構想の中で後押ししてほしい。
- 地域と学校が一体となって子どもたちを育てる環境づくりは、行政にも求められていることだと思う。多様な主体の参加・応援をいただきながら、みんなで子どもたちを育てることが大切だと思っている。

5 閉 会